



東京札幌会だより

Vol.54

ご挨拶

会員の皆様、立夏も過ぎ、芒種の頃となりました。いかがお過ごしでしょうか。俳句の季語「薄暑」(初夏の頃ほのかに感じる暑さ、暑さであっても不快感がないもの)のとおり、外出には持つてこいの季節です。自然と足は緑の多い場所に向かっていきます。都市化が進む前は、多くの人は里山の近くで暮らしていましたから、その辺りに足が向くことは、言わば「ふるさと返り」の行動かもしれません。

人が手を入れた自然である里山(森林)は、人々の暮らしに必要な食料や燃料をはじめ、葉や染料、建築資材に至る生活用品を獲得する場でした。と同時に四季が巡り、適度のオゾンが発生する癒しの場でもありました。そうは言っても、私たち道産子には、里山はあまり馴染みがないことも事実です。今も、ふるさと札幌の周辺の山々には鬱蒼とした原始の森が広がっています。わずか百五十年ほど前に、その原生林を伐採し、原野を開墾して、生活の場を

をつくってきたわけですから、里山の概念に乏しく、そもそも里山文化の歴史も刻まれていません。しかし、道外(本州、四国・九州)にルーツを持つ道産子に里山は無関係ではありません。そこで、里山文化の背景にある森林についての主要な文化論を紹介したいと思います。その一つがブナ帯(ナラ林)文化論で、これは——ブナやミズナラなどの落葉広葉樹林からの恩恵が生態系を形作った結果、人は食料資源として、大型・中型の動物を狩猟対象にした。さらに、落葉の腐食が作り出す肥沃な土壌は、太陽光の下で林床にベリ類等の低木・灌木や山菜・キノコ類を育てた。その土壌に浸み込んだ雨水は、湖水や河川に流れ出してプランクトンを発生させ、魚類などの水産資源を生み出した。このように、恵まれた自然から、狩猟や採集、漁労によって食料資源が得られたために、稲作(農耕社会)への移行は遅れてしまった——というものです。



東京札幌会 会長 秦 豊昭

もう一方の照葉樹林文化論は——ブナ帯に比べて自然からの食料資源に恵まれなかった照葉樹林帯では、高温多湿の自然環境で米や茶・みかん等が栽培され、発酵食品(醬・酢・味噌等)が生まれた。稲作は安定的な食糧を賄って人々を定住させ、弥生時代の人口増加を促した——というものです。よく「日本人は農耕民族だ」と言われますが、この二つの文化論は、「狩猟民族」でも「農耕民族」でもあることを示唆しているようです。私たち道産子も、そのルーツに「挑戦(狩猟)」と「忍耐(農耕)」という二つのDNAを受け継いでいるからこそ、開拓使設置から百五十余年で、この北の大地に人口二百万人に迫る大都市を創り上げることができたのではないのでしょうか。

当会の運営にあたり、私たち役員一同、ふるさとの礎を築いた祖父母・曾祖父母らの開拓者精神とその努力を胸に刻み、精一杯努めて参ります。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

イベント報告①「第4回 札幌企業東京交流会 & 特別講演会」2023年11月8日(水) / 東京交通会館

2023年1月に開催の第3回に引き続き、「特別講演会(第2回)」とセットで「札幌企業東京交流会(第4回)」を開催。法人会員や札幌関係企業、一般会員など約50名が参加しました。第1部の講演会では、札幌市の「都心のまちづくり」と「ウィンタースポーツ振興への取組」の二つのテーマが語られ、引き続き行われた第2部の交流会では、名刺交換や歓談、情報交換などが活発に行われました。



▼講師の枝元 俊晴氏(札幌市スポーツ局 招致推進部 招致戦略担当課長)。

▲講師の岩田 朋道氏(札幌市まちづくり政策局 都心まちづくり推進室 都心まちづくり課長)は、進行中のプロジェクトも含めて、これからの札幌都心のまちづくりの展望を紹介。



市長メッセージ



札幌市 市長

秋元 克広

東京札幌会の皆様には、日ごろから札幌市政の推進にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、「ふるさと札幌」を力強く応援いただき、重ねて感謝申し上げますとともに、今年3月に行われました東京札幌会「春のつどい」が大勢の方のお集まりのもと、盛会に開催されたことを、心よりお祝い申し上げます。

さて、昨年度は9月に、64の国と地域から、観光関係者773名が参加した「アドベンチャートラベル・ワールドサミット(A.T.W.S)」という世界が注目する催しが行われ、札幌・北海道の魅力を国内外に発信する好機となりました。また、大通ビアガーデンや雪まつりといった本市を代表する大型イベントが4年ぶりに通常開催され、国内外から多くの観光客が訪れるなど、コロナ禍からの回復が着実に進んでいることを実感したところです。

加えて、先のG7札幌環境大臣会合の開催を契機として、札幌市・北海道は、「脱炭素社会の未来を拓く北海道・札幌宣言」を行いました。宣言では、北海道が持つ国内随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限に活用して、再生可能エネルギーを利用する産業の振興や、世界的な環境金融の呼び込みなどに積極的に取り組む決意を表明しました。

国はGX(グリーン・トランスフォーメーション)投資を大胆に加速させ、今後10年間で、官民協調で150兆円を超える新たな関連投資を実現する方針を掲げています。こうした官民投資、そしてこれらに呼応する形で世界中から集まる投資を北海道・札幌に呼び込むためには、そのための環境整備が極めて重要です。そこで、昨年6月に産学官金21機関で構成されるGX・金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」を設立しました。そして6月4日、北海道と札幌市は、世界レベルでの規制

緩和や、税制優遇措置等を実現するための「GX金融・資産運用特区」に指定されました。百年に一度のこのチャンスをしっかり捉え、GXと金融を掛け合わせることで、これまでに類のない新しい地方創生の姿を作り上げて参りますので、この分野も、どうぞ注目ください。

結びに、東京札幌会の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。



この夏の開催が待ち遠しい大通ビアガーデン

札幌 TOPIC 「さっぽろ大通ビアガーデン」 2024年7月19日(金)~8月14日(水) / 札幌市内



札幌の夏の風物詩である「さっぽろ大通ビアガーデン」は、都心部の大通西5~8、10・11丁目の約1kmにわたり、およそ1万席が用意される国内最大級のビアガーデンです。国内4大ビールメーカーが店出し、それぞれに趣向を凝らした会場づくりを行っています。札幌市内の対象ホテル宿泊者には、混雑時にも安心してご利用いただける観光専用予約席「おもてなシート」も設置予定です。爽やかな札幌の夏を、冷たいビールで存分に楽しむことができる、市民にも観光客にも大人気の「さっぽろ夏まつり」恒例のビアガーデンに、ぜひ、お出かけください。



イベント報告③ 「国会見学会 & 秋のつどい」 2023年10月8日(日) / 衆議院 & 北海道・飯田橋駅前店

初の試みとして、午後3時からの第1部「国会見学会（ガイド付衆議院見学ツアー；文化の秋）」と、引き続き、夕方～夜の第2部「秋のつどい（北海道の味わいを楽しむ懇親会；味覚の秋）」を企画。第1部に25名、第2部に32名の参加者があり、それぞれに趣向の異なる二つの秋のイベントを楽しみました。



▲第1部は、衆議院議員秘書の佐々木昭雄監事（後列右から2人目）の詳しいガイドで、約1時間の衆議院見学ツアーを、つつがなく終了。

▲第2部の会場は、飯田橋駅上の「北海道愛食大使」認定店・北海道。北の食材と飲み放題に会話が弾み、地上20階からの夕暮れ～夜景を眺めることも、つい忘れがちに……(!?)



イベント報告② 「暑気払いビール会(夏のつどい)」 2023年7月22日(土) / 新宿ライオン会館



▶ 浴衣姿の若木家元翁（柳 和久）さんの軽快な小唄に、大いに笑って、また飲んで！



コロナ禍による中断・試行錯誤を経た2023年夏、やっと本来の「暑気払いビール会」が復活しました。初めて利用する新宿ライオン会館6階の「パーティ個室ライオン」に、この日を待ちわびた約60名が集まり、故郷・札幌がルーツの生ビール（黒ラベル）で乾杯！飲み放題のビールや各種ドリンクがグイグイ進む料理を味わいながら、久しぶりの方も、初めての方も、たちまち和やかに打ち解け、陽気な歓談が続きました。今年は7月20日（土）、また同じ会場で飲みましょう！⇒早速、同封の《ご案内》をご覧ください。

— 新たな100年の創造へ — カネシメグループは挑戦し続けます



カネシメグループは皆様の支えのもと、創業100周年を迎えることができました。これからも北海道の「食」を事業の核に据え、世界中の多くの人をつなぐプラットフォーム企業を目指し、皆様とともに、ゆっくりと豊かに堅実な成長を続けていきます。

- 高橋水産株式会社
- カネシメ冷蔵株式会社
- カネシメ食品株式会社
- 株式会社札幌市中央卸売市場 食品衛生検査センター
- TASTE OF HOKKAIDO 株式会社
- サポート北海道株式会社
- カネシメホールディングス株式会社

イベント報告④「春のつどい(第48回総会・懇親会)」2024年3月17日(日)ノホテルグランドヒル市ヶ谷



札幌市・秋元市長の名代、石川敏也副市長に来賓のご挨拶をいただきました。

▶ 乾杯のご発声をお願いしたしのだ江里子札幌市議会副議長。



▶ 北海道ふるさと会連合会のイベントの都合で途中退席する新家鶴男同連合会長が皆様にご挨拶。



開催時期を3月に移して2度目の「春のつどい」には約50名が参加。第48回総会に先立ち、渡辺 拓元会長の逝去(8頁を参照)が伝えられ、全員で黙祷を捧げました。総会では、退任・新任各1名の役員変更を含む全ての議案が承認されて、滞りなく終了。引き続き懇親会が開幕し、秦会長、札幌市・石川副市長のご挨拶、しのだ札幌市議会副議長の乾杯のご発声で、和やかな春の宴が繰り広げられました。



イベント報告⑤「北海道ふるさと会連合会 春のジンギスカン大会」2024年5月25日(土)ノ松尾ジンギスカン赤坂店



北海道ふるさと会連合会の恒例イベント「春のジンギスカン大会」が、道産子には“まつじん”でおなじみの松尾ジンギスカン赤坂店で開催されました。総勢60名以上(上の写真)で貸切にした赤坂店に、東京札幌会からは計10名の会員と同伴者(左の写真)が足を運び、道民熱愛のソウルフード、“タレが命”の松尾ジンギスカンをタププリといただきました。

札幌市中央卸売市場

 丸水札幌中央水産株式会社

本社：札幌市中央区北12条西20丁目2番1号
TEL 011-643-1234/ FAX 011-644-8181

東京事務所：東京都中央区築地3丁目12番11号 ナカシゲビル3F
TEL 03-6228-4724/ FAX 03-3545-3956

<http://www.marusui-net.co.jp/>

「さっぽろワイン」を知っていると役立つかも

札幌は「ワインの街」だった!?

地球温暖化のためか、北海道の農作物は、どんどん進化しているようで、困難とされてきた良質なワイン用ブドウの栽培と、質の良いワイン造りの可能性が広がり、各地に続々とワイナリーが誕生している。北海道は今、山梨、長野に次ぐ国内第3位のワイナリー数(60以上)。この10年で3倍以上に急増)を誇る日本有数のワイン産地になっている。

北海道のワイン醸造の歴史は、1876(明治9)年、開拓使が開設した「札幌葡萄酒醸造所」に始まる。その廃業で、1913(大正2)年から途絶えていた北海道のワイン生産は、1960年代に十勝・池田町で復活し、富良野や函館、

七飯、小樽など、道内各地に広がっていった。

そして2001(平成13)年、札幌市中央区・盤渓峡の中腹に開設された「ばんけい峡のワイナリー」で、札幌のワイン醸造の歴史が再開。2009(同21)年には南区藤野で「さっぽろ藤野ワイナリー」がワイン製造を始め、南区砥山には2011(同23)年に「八剣山ワイナリー」が誕生した。さらに2020(令和2)年、手稲区新発寒で「さっぽろワイン株式会社」が開業。ばんけい峡のワイナリーは昨年3月に醸造を終了して23年の歴史に幕を閉じたが、この春、中央区の北大植物園隣接地で都市型ワイナリー「リベラワインテラス」が醸造を開始。市内に4つのワイナリーがある札幌は、いずれ「恋の町」「ビールのまち」だけじゃなく、「ワインの街」と呼ばれる日が来るのかもしれない。



▲1876(明治9)年に開拓使が太政官に提出した製糸所、葡萄酒製造(醸造)所、麦酒製造(醸造)所の写真。葡萄酒・麦酒醸造所は同年9月に建設。

開拓使が「札幌葡萄酒醸造所」を開設した1876(明治9)年、北海道初のワイン醸造が行われた。その後、民間(長州の桂 二郎)に払い下げになった同醸造所は、1891(同24)年に札幌の実業家・谷 七太郎に売却されたが、1913(大正2)年には廃業。札幌市内で再びワイン醸造が行われたのは88年後の2001(平成13)年だった。

◀八剣山ワイナリー・八剣山キッチン&マルシェ(ワイナリー敷地内に併設のイートインレストランとショッピングコーナー) / 〒061-2275 南区砥山194-1 / TEL.&FAX.011-596-5778 / 定休日・営業時間はホームページ「お知らせ」を参照

▼さっぽろ藤野ワイナリー / 〒061-2271 南区藤野670-1 / TEL.011-593-8700 / FAX.011-596-9377 / 営業時間(定休日・火曜日) 11:00~17:00 / 敷地内に「カフェ&レストラン ヴィーニュ」を併設



▲さっぽろワイン株式会社 / 〒006-0805 手稲区新発寒5-1-6-1 / 新発寒醸造所・事務所(営業日・月・火・水) TEL.011-681-0213、同・直売ショップ(営業日・木・金・土・日・祝 / 11:00~17:00) TEL.011-215-5796 / FAX. 011-215-5798 / 醸造所とともに札幌市に手稲前田ヴィンヤード(上の写真)と新琴似ヴィンヤード、石狩市に八幡ヴィンヤード&ショップと樽川ヴィンヤードを展開 ※ヴィンヤード: ブドウ畑



2023年9月、北海道大学は札幌キャンパス内に学内共同プロジェクトの拠点となる「北海道大学ワイン教育研究センター」を開所(設立は2022年4月)。道産ワインの試飲(有料)やセミナー開催で一般開放の予定も。



スタートアップ・ベンチャー・中小中堅企業の 採用改善 人材定着

- ✓ 事業拡大を考えている
- ✓ 求人広告を出しても応募が来ない
- ✓ 人材が定着しない

そのお悩み
採用改善の専門家が
解決を支援します!



採用改善の専門家の力を月2時間から気軽に

■サブスク人事(人事顧問)

採用や育成、定着など、「ヒト」に関する悩みを定期的に相談できる環境をご提供

月2時間からお気軽に タイムチャージ制	コンサルティング 改善提案	改善提案内容を代行 ※契約時間の範囲で
------------------------	------------------	------------------------

月額 ~~¥40,000~~(税別) ~ (月2時間~)

中小企業様応援プラン

月額 ¥20,000(税別) ~ (月2時間~)

求人広告費用を、50~70%削減!
無料の採用手法で、採用を実現!
恒常的、継続的な採用体制を確立!

※改善効果の一例

オンラインで、初回30分無料で、採用改善や人材定着をアドバイスします!
採用改善の専門家がコンサルティング&実行支援(代行)でサポート!

PrimoPinguino 株式会社

Mail info@p-pinguino.com
Tel.03-5464-3320
受付時間(平日10:00~18:00)

・北海道千歳市出身・東京札幌会幹事 東京都千代田区外神田二丁目7番7号

札幌市東京事務所より

札幌市東京事務所 所長 佐藤 美賀

昨年度一年をかけて、四季折々に企画されている東京札幌会の活動に参加させていただき、皆様の「今の札幌を知りたい」「札幌のために何かしたい」という熱い気持ちに深く感動したところでございます。東京事務所としても、皆様の活動を支える形で、皆様の思いを実現していきたいと思っておりますので、引き続きの応援をお願いいたします。

本年度、新たに着任した4名の職員からご挨拶をさせていただきます。



札幌市東京事務所職員の皆さん

(前列左から) 脇坂 綾さん、磯尾尚弘担当課長、佐藤美賀所長
 工藤一也副所長、國安由香子さん、行天朋会さん
 (後列左から) 後藤秀治さん、奥山寛之さん、小村拓翔さん、廣川沙耶さん
 工藤奈津子さん、佐藤史弥さん

連絡担当係長 行天 朋会

東京だからこそ直接触れることのできる歴史や文化への期待、東京の暑さや人混みに対する不安などとともに着任いたしました。札幌を離れて生活するのは20年振りとなります。離れた場所から見つめることで札幌の魅力を再発見し、多くの方々に札幌を好きになってもらえるよう、その魅力を発信していきたいと思えます。東京在任中は「つなぐ」をテーマとして、多くの方々との出会いを大切に、首都圏に集中する資源や情報を様々な形で札幌へ橋渡しできるよう、公私ともに過ごしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

連絡担当係長 奥山 寛之

札幌市が進めるGX(グリーン・トランスフォーメーション)と金融によるまちづくりに関する中央省庁との連絡調整担当として、4月に着任いたしました。雪が残る札幌から桜が咲いている東京への引越は、季節が変わったような感覚があり、この気候の差に札幌の魅力を再認識するとともに、環境への取り組みに関わる今後の仕事の意義を肌で感じたところです。職歴としては広報課が長かったのですが、中から見つめていた市政を一步離れ、物事の進みが速い東京から俯瞰できるというのは、大きな経験になると感じています。今後は東京事務所の一員として、皆様のお力をお借りしながら、東京の活力を札幌へつなげるよう励んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

シテイセールス担当係長 國安 由香子

この4月から東京で暮らし始めました。来訪を待つてくれていたように今年は桜の開花が遅く、東京の繊細な桜の花を堪能することができました。めまぐるしく動き続けているように見える東京に、北海道・札幌とは一味違う四季が、歴史とともに根付いていることを、早くも感じる事ができたように思います。前職として取り組んできた札幌国際芸術祭では、道外・海外から来た方たちから札幌についての気づきを得る機会が多くありました。私もこれから東京で様々な人との出会い、文化に触れるとともに、改めて札幌ならではの魅力を再発見して、首都圏・札幌それぞれのエネルギーとチャレンジをつなげる一助になりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務職員 小村 拓翔

この4月に家族ともども上京しまして、初めて東京の地に足を踏み入れました。東京での生活は始まったばかりですが、通勤中に交通広告「電車の中のテレビ局」トレインTV」などの新しいサービスを発見し胸を躍らせたり、公園に子どもを連れて行った際に遊具の種類や気温の高さから札幌の魅力を再認識したりするなど、札幌との違いを見つながら充実した毎日をお過ごしいます。私の仕事は首都圏に住む方々に札幌の魅力をPRすることです。東京と札幌との違いをたくさん感じ取りながら、札幌の魅力を効果的に発信していけるように精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

東京札幌会役員紹介

今年3月17日の第48回総会で退任1名、新任1名の役員変更が承認され、新体制となりました。会員の皆様には、ますますのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

※任期は2025(令和7)年の第49回総会まで

★女性(役員的女性比率40%)

〈会長〉秦 豊昭(はた・とよあき)

〈副会長〉松代 洋子(まつしろ・ようこ)★

〈幹事長〉道見 由貴(どうみ・ゆき)★

〈幹事(五十音順)〉

岩浪 久美(いわなみくみ)★

大江 浩人(おおえひろと)

奥園 恵美子(おくぞの・えみこ)★

木下 峻一(きのした・しゅんいち)*新任

清水 宣之(しみずのりゆき)

道免 順(どうめん・じゅん)

富田 信二(とみた・しんじ)

秦 美代(はたみよ)★

福崎 芳枝(ふくさき・よしえ)★

宮永 明子(みやながあきこ)★

森田 茂才(もりた・しげとし)

山中 茂樹(やまなか・しげき)

山根 早苗(やまねさなえ)★

米村 猛(よねむら・たけし)

渡辺 克己(わたなべ・かつみ)

〈監事〉金曾 裕一(かねそ・ゆういち)

佐々木 昭雄(ささき・あきお)

【追悼～感謝とともに～】

昨年11月24日に、当会第4代(2006～2013年)会長の渡辺 拓氏(行年90歳)が、また、本年5月27日に、2018年まで長く役員を務めた横館英雄氏(行年82歳)が逝去されました。「楽しい東京札幌会」のために、長年にわたってお二人から賜りましたご貢献に深く感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

東京札幌会ホームページ

<http://www.tokyo-sapporokai.com/>

スマホは▼



イベントのご案内や開催報告などは東京札幌会のホームページに随時、掲載しています。ご活用ください！

※登録のメールアドレス宛にイベント等のご案内をお届けします。未登録の方は、ぜひ、ご登録いただけますと幸いです。

- ▼ 東京札幌会は札幌を愛する有志による「ふるさと会」です。当会に集う仲間の楽しい交流の場を設けるとともに、「ふるさと札幌をもっと元気に！」と願う応援団として、さまざまな活動を展開して参ります。
- ▼ 東京札幌会これからのイベント(予定)
 - ← 同封の《ご案内》をご覧ください
 - 7月20日(土) 正午～
 - 「暑気払いビール会(夏のつどい)」
新宿ライオン会館6階・パーティ個室ライオン
 - ← 詳細が決まり次第、《ご案内》をお届けします
 - 9月～12月頃
 - 「秋のつどい」
 - ▼ 「第5回札幌企業東京交流会」
 - 2025年3月頃
 - ▼ 「2025 春のつどい(第49回総会&懇親会)」

「サッポロスマイル」は“笑顔になれる街”札幌の印象的なイメージロゴ魅力あふれる故郷を想い毎日を素敵な笑顔で！



広告を掲載しませんか？

本誌「東京札幌会だより」(Vol.54/2024年6月発行)より広告掲載を再開しました。ご協賛各位に心より御礼申し上げます。今後も協賛広告の募集を継続いたします。掲載サイズ、料金などの詳細は、下記事務局までお問い合わせください。

【東京札幌会事務局】

〒100-0006 千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館3階 札幌市東京事務所内
TEL.03-3216-5090
FAX.03-3216-5199
E-mail: tksapporokai@gmail.com
(担当: 後藤、小村)



【札幌市南区砥山・八剣山ワイナリー】古くからリンゴやサクランボなどの果樹栽培が行われてきた八剣山地域。中でも、南に向かう扇状地が緩斜面を作り、水はけ、日当たりが良い八剣山南山麓で、試験的にブドウ栽培が開始されたのは2008年。2011年に、同地域にふさわしい“さっぽろ地ワイン”ブランドの製品化を目指して活動を始めた「八剣山ワイナリー」は、この土地に最も適したブドウ品種選定のため、25種類以上の品種の試験栽培を続けている。



表紙の写真

▲ 八剣山ワイナリーのブドウ畑